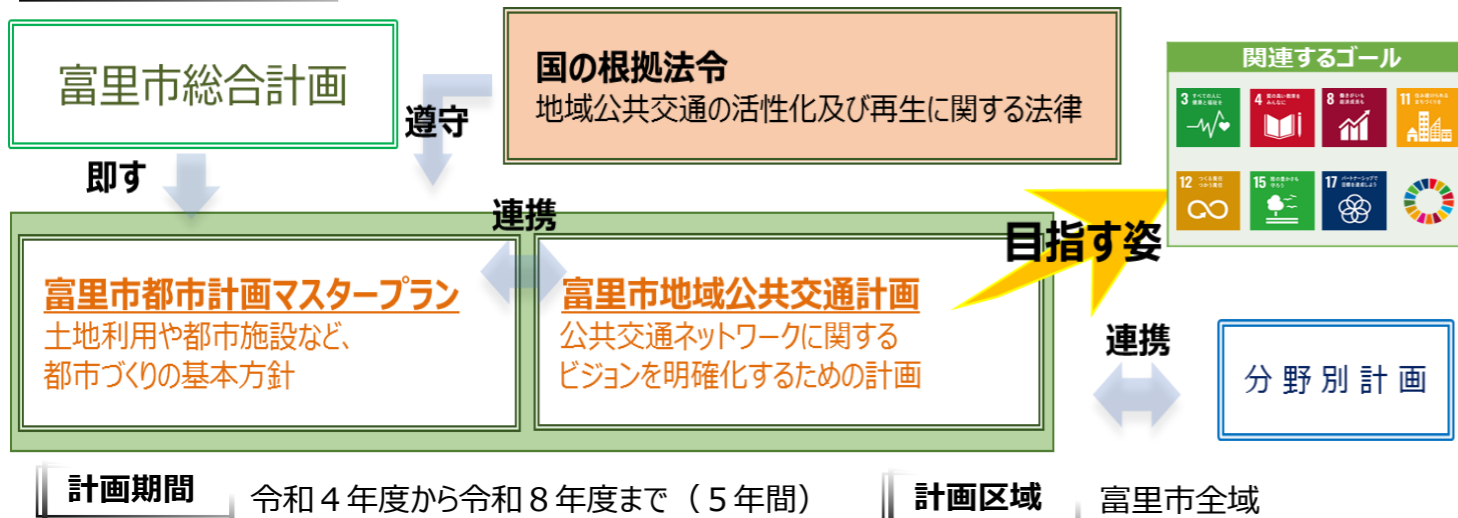


序章 計画の概要

計画の背景・目的

- 本市では、高齢化の進行による交通需要と利用ニーズは多様化しており、また、成田空港の更なる機能強化や新型コロナウイルス感染症など、社会動向は大きく変化しています。
- 社会動向の変化に応じた、持続可能な公共交通施策の指針として、「富里市地域公共交通計画」を策定することとし、「市民ニーズにきめ細やかに対応できる地域公共交通計画」とすることで、その実効性・実現性を確保していきます。

計画の位置づけ



第1章 富里市の公共交通の現状

地域特性

- 人口減少や少子高齢化の進行
- 市民ニーズの多様化
- 市内には鉄道駅がない
- 自動車保有台数の増加
- 移動の交通手段は大半が自動車
- 旧岩崎久彌末廣農場別邸公園の整備
- 成田空港の機能強化等に伴うアクセスの必要性

交通特性

- 民間路線バス（7路線） 高速バス（3路線） さとバス（2路線） デマンド交通（3ルート） 移送サービス（自家用有償旅客運送）等
- さとバス、デマンド交通の収支率は1割以下
- さとバス車両の更新時期（20年、70万km）
- さとバス利用者は減少傾向かつ極めて少ない
- 交通利便性が高い地域と交通空白不便地域が混在

第2章 市民移動ニーズの調査

- 通院先は、市内では、成田富里徳洲会病院・龍岡クリニック 市外では、成田赤十字病院・国際医療福祉大学 成田病院が多い。遊び等の行先は、市内では、ジョイフル本田、市外では、イオンモール成田が多い
- 日常的な移動として「さとバス」を利用しないと回答した市民が9割以上
- 空港アクセスを必要とする市民が約8割いる
- デマンド交通は登録したが利用していない人が約半数いる
- デマンド交通のニーズとして「ルートの拡大」「予約の廃止」と回答した市民が多い
- 京成成田駅への依存が高い
- ドアトゥドアのオンデマンドシステムを望む声が多い

第3章 課題の整理

公共交通ネットワークの課題

- 「地域間ネットワークの確保・維持」
- 周辺鉄道駅（成田、酒々井、八街）へのアクセス強化
- 生活圏と拠点をつなぐ都市基盤としての交通ネットワークの確保
- 成田空港機能強化に伴う定住促進及び通勤需要への対応

日常生活の移動の課題

- 「交通弱者の面的な移動手段の確保」
- 高齢者に配慮したさとバスの見直し
- 高齢者（買い物・通院）の移動手段の確保
- 市民の移動ニーズに対応した、利便性の高い公共交通の維持確保
- 交通空白地域の解消

富里市公共交通の課題

- 「持続可能な公共交通体系の構築」
- デマンド交通の機能の強化
- 地域参加による持続可能な公共交通の確保
- 市交通事業全体の面的な運用の改善

公共交通の利用意識の課題

- 「公共交通の利用意識の醸成」
- わかりやすく利用しやすい環境の改善
- 公共交通全般に関する情報発信
- 過度な自動車に依存の解消による公共交通への転換

第4章 富里市公共交通の将来像

将来像 ～暮らしを守り、みんなで支え、未来へつなぐ持続可能な交通体系～

暮らしを守る

- 少子高齢化社会において、免許を持たない高齢者と通学利用の子供たちの移動手段の確保により、市民の暮らしといのちを守るため、市民のニーズやまちづくりの方向性等、地域の実情に即した公共交通体系を構築します。

みんなで支える

- 市民、交通事業者、行政それぞれが抱える課題について共通認識を持ち、地域一体となって取り組む体制づくりに向け、実効性のある施策を各事業ごとに設定します。

未来へつなぐ

- 既存の公共交通の手段だけではなく、「地域における輸送資源を総動員」することで、持続可能な公共交通体系を構築します。

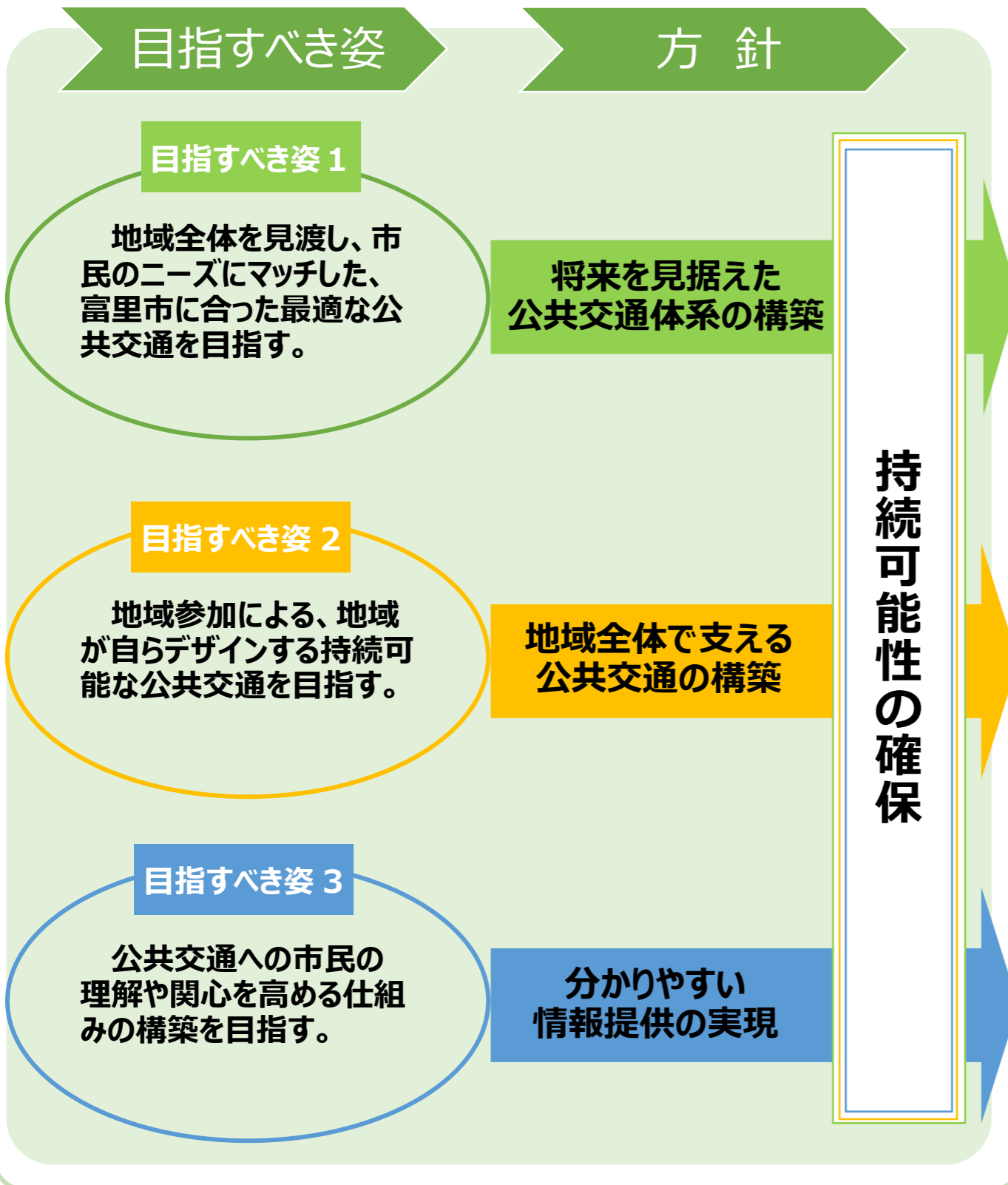
将来像に込めた思い

- 鉄道駅のない本市では、自動車利用が進んでいます。市民ニーズ調査で「免許返納したいけど移動できる足がなくなるから返納できない」という声が多く寄せられています。
- 人口減少や高齢化が進む中で、持続可能な交通施策を実現するためには、行政主体による環境づくりだけでなく、地域や市民、事業者などがそれぞれの立場で相互に連携し、一体となって環境づくりを行うことが重要です。
- 市民起点に立ち、子どもから高齢者まで、全ての市民が安全で安心する豊かな生活を送ることができるよう、市民と行政が様々な場面で手を携え、民間の活力を活用しながら、「住みよいまち 富里」の実現に向けて、「暮らしを守り、みんなで支え、未来へつなぐ持続可能な交通体系」を掲げました。



## 第5章 富里市公共交通の目指す姿

○ 本市が目指すべき将来像の実現を図るとともに、公共交通の課題への対応を図る視点から、より良くするための公共交通施策の目指すべき姿及び方針を設定します。



## 第6章 実施事業及び実施主体

事業メニュー・目的	実施年度	実施主体	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
<b>【目指すべき姿 1】</b> 地域全体を見渡し、市民のニーズにマッチした、富里市に合った最適な公共交通を目指す。							
① 民間バスの路線維持・拡充 ⇒ ネットワークの利便性を高める		交通事業者	検討		順次実施		
② さとバスの見直し ⇒ 停留所まで歩く負担を軽減		富里市	検討	実証運行	利用状況を見て本格運行		
③ デマンド交通の拡充 ⇒ 利便性を高め、移動性を向上		富里市・交通事業者	検討	実証運行	利用状況を見て本格運行		
④ 交通ネットワークの機能強化 ⇒ 利便性を高め、移動性を向上		富里市・交通事業者	検討		運用		
⑤ 福祉移送サービスの充実 ⇒ 交通弱者の交通手段の確保		富里市・交通事業者 NPO等			順次実施		
⑥ スクールバスの見直し ⇒ 持続可能な公共交通運営		富里市・交通事業者			運行（順次見直し）		
⑦ 成田空港へのアクセス ⇒ 就業者等の交通手段の確保		富里市・交通事業者			検討		
<b>【目指すべき姿 2】</b> 地域参加による、地域が自らデザインする持続可能な公共交通を目指す。							
⑧ 地域主体による新たな地域公共交通の導入に向けた取組【展開地区】 ⇒ 持続可能な公共交通運営		富里市・交通事業者 NPO等	準備	実証運行	利用状況を見て本格運行		
⑨ 交通事業者と連携した新たな交通システムの展開【予約なしお迎えサービス】 ⇒ 各地域の移動ニーズにきめ細やかに対応		交通事業者等	準備	実施			
⑩ 富里市独自のモビリティサービスの検討 ⇒ 魅力的なモビリティサービスの構築		富里市・交通事業者 NPO等			順次実施		
<b>【目指すべき姿 3】</b> 公共交通への市民の理解や関心を高める仕組みの構築を目指す。							
⑪ 利用促進のための意識啓発【有料広告を活用したチラシの作成及び配布】 ⇒ 持続可能な公共交通運営		富里市・交通事業者 市民	準備	実施			
⑫ モビリティ・マネジメントの実施※ 【住民説明会等】 ⇒ 次世代へつなぐ公共交通 ⇒ 免許返納の推進		富里市・交通事業者 市民	検討		順次実施		

※多様な交通施策を活用し、個人や組織・地域のモビリティ（移動状況）が社会にも個人にも望ましい方向へ自発的に変化することを促す取組

## 第7章 進捗状況の評価と推進管理体制

○ 「富里市地域公共交通計画」の推進にあたっては、公共交通を取り巻く環境（人口減少等）の大きな変化をあらかじめ検討した上で、本計画に記載した事業等の評価・検証を継続的に行い、策定後も、不断の見直しを行います。

